



2021年5月7日

各 位

会 社 名 株式会社ゼネラルオイスター  
代表者名 代表取締役社長 吉田 秀則  
(コード番号：3224 東証マザーズ)  
問合せ先 経営管理本部 芝田 茂樹  
執行役員 本部長  
(TEL 03-6667-6606)

(訂正) 「2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、2020年11月13日に開示いたしました「2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 訂正内容と理由

訂正内容と理由につきましては、別途、本日(2021年5月7日)付「過年度の有価証券報告書等および決算短信の訂正に関するお知らせ」にて開示しておりますのでご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正の箇所には\_\_\_\_を付して表示しております。

以 上

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

(訂正前)

<前略>

セグメントの業績は次のとおりです。以下の売上高の数値はセグメント間の取引消去前となっております。報告セグメントと事業の内容の関係性は次のとおりです。

①「店舗事業」は、店舗事業、富山入善ヴィレッジ事業の店舗から構成されます。

②「卸売事業」は、卸売事業から構成されます。

③「浄化・物流事業」は、富山入善ヴィレッジ事業の浄化・物流事業から構成されます。

④「その他」は、種苗及び海面養殖事業、陸上養殖事業、加工事業及び岩手大槌ヴィレッジ事業、ECサイト事業から構成されます。

#### ① 店舗事業

<省略>

#### ② 卸売事業

<省略>

#### ③ 浄化・物流事業

浄化・物流事業では、牡蠣を各産地から富山県入善町の浄化センターに入荷し、自社店舗及び卸売先への出荷を行っております。また牡蠣の入荷時及び出荷時の衛生検査も実施しており、牡蠣の安全性確保、店舗及び卸売先への安定供給を支え、当社グループの安全・安心を担保する事業となっております。また、当社グループにおけるコストセンターの位置づけであり、費用を予算によりコントロールするマネジメントを行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、店舗事業及び卸売事業への供給が減少したことに加え、2020年4月から5月にかけて、営業日数を減少させたことにより、費用を削減することができました。

以上の結果、浄化・物流事業における売上高199,263千円（前年同期比29.3%減）、セグメント損失50,462千円（前年同期セグメント損失111,495千円）となりました。

#### ④ その他

その他には、従前からの加工事業や養殖事業に加え、ECサイト事業などが含まれます。当第2四半期連結累計期間においては、加工製品を自社店舗に出荷したことから売上が計上されていることに加え、2020年8月に開始したECサイトを通じた販売事業の売上も計上されております。また、加工工場の事業については、積極的に付加価値の高いオリジナル加工品の開発・商品化を行っているほか、店舗事業の効率化のためのセントラルキッチン機能の役割を担っています。一方、陸上養殖は未だに研究段階であり、費用計上のみとなっております。

以上の結果、その他の事業における売上高22,941千円（前年同期比83.7%減）、セグメント損失61,326千円（前年同期セグメント損失103,586千円）となりました。

(訂正後)

<前略>

セグメントの業績は次のとおりです。以下の売上高の数値はセグメント間の取引消去前となっております。  
報告セグメントと事業の内容の関係性は次のとおりです。

- ①「店舗事業」は、店舗事業、富山入善ヴィレッジ事業の店舗から構成されます。
- ②「卸売事業」は、卸売事業から構成されます。
- ④「その他」は、浄化センター、加工工場及び陸上養殖の所在エリア内でのイベント事業、及びECサイト事業から構成されます。

① 店舗事業

<省略>

② 卸売事業

<省略>

③ その他

その他には、浄化センター、加工工場及び陸上養殖の所在エリア内でのイベント事業及びECサイト事業などで売上がございました。

以上の結果、その他の事業における売上高5,352千円（前年同期比62.4%減）、セグメント利益679千円（前年同期比92.8%減）となりました。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

(訂正前)

当社グループは、前連結会計年度において営業損失146,122千円、経常損失157,131千円、親会社株主に帰属する当期純損失106,971千円を計上し、当第2四半期連結累計期間においても営業損失289,563千円、経常損失294,963千円、親会社株主に帰属する四半期純損失226,743千円を計上しております。

また、新型コロナウイルス感染症拡大のための政府の緊急事態宣言により、臨時休業しておりましたが、6月3日より全店営業を再開しております。しかしながら、時短営業による景況などにより、今後資金繰りにも影響が出てくる可能性があります。

これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

今後、当社グループは以下の対応策を講じ、当該状況の改善及び解消に努めてまいります。

#### (1) 事業について

##### ①店舗事業

販売促進活動の更なる強化や店舗メニューの戦略的な見直し等の施策、及び予約システムの強化で、予約件数をはじめ、客数及び客単価の更なる売上の増加に努めます。

またコスト高になりつつある現状を鑑みて、牡蠣の自社グループ生産や原材料仕入方法の見直しによる原価低減及びアルバイトシフト管理徹底による人件費抑制、その他経費削減にも努めてまいります。

##### ②卸売事業

国内販売に関しては、営業力を強化し、取引先の開拓に努め取引顧客数を更に増加させていきます。また、アジア展開に関しては、取引量を拡大させるべく様々な販路拡大に努め、収益力向上を目指します。

##### ③浄化・物流事業

富山県の浄化センターにおける業務の効率化、及び物流の最適化を図り、費用削減を行ってまいります。

##### ④その他

沖縄の陸上養殖は、実証実験を続け、量産化に向け、ステップを歩んでおります。

岩手の加工工場の事業につきましては、コロナ禍による事業の影響を踏まえ、キャッシュアウト削減の観点から、一部稼働休止や時間短縮など機動的な稼働へ転換してまいります。

また、牡蠣の販売チャネルを拡大させるべく、2020年8月より、ECサイト（E-オイスター）を通じた一般消費者への販売を開始しました。今後は、SNSを通じたマーケティングを強化し、売上拡大に努めて参ります。

#### (2) 財務基盤の安定化

<以下略>

(訂正後)

当社グループは、前連結会計年度において営業損失146,122千円、経常損失157,131千円、親会社株主に帰属する当期純損失106,971千円を計上し、当第2四半期連結累計期間においても営業損失289,563千円、経常損失294,963千円、親会社株主に帰属する四半期純損失226,743千円を計上しております。

また、新型コロナウイルス感染症拡大のための政府の緊急事態宣言により、臨時休業しておりましたが、6月3日より全店営業を再開しております。しかしながら、時短営業による景況などにより、今後資金繰りにも影響が出てくる可能性があります。

これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

今後、当社グループは以下の対応策を講じ、当該状況の改善及び解消に努めてまいります。

## (1) 事業について

### ①店舗事業

販売促進活動の更なる強化や店舗メニューの戦略的な見直し等の施策、及び予約システムの強化で、予約件数をはじめ、客数及び客単価の更なる売上の増加に努めます。

またコスト高になりつつある現状を鑑みて、牡蠣の自社グループ生産や原材料仕入方法の見直しによる原価低減及びアルバイトシフト管理徹底による人件費抑制、その他経費削減にも努めてまいります。

### ②卸売事業

国内販売に関しては、営業力を強化し、取引先の開拓に努め取引顧客数を更に増加させていきます。また、アジア展開に関しては、取引量を拡大させるべく様々な販路拡大に努め、収益力向上を目指します。

### ③その他

富山県の浄化センターにおける業務の効率化、及び物流の最適化を図り、費用削減を行ってまいります。

沖縄の陸上養殖は、実証実験を続け、量産化に向け、ステップを歩んでおります。

岩手の加工工場の事業につきましては、コロナ禍による事業の影響を踏まえ、キャッシュアウト削減の観点から、一部稼働休止や時間短縮など機動的な稼働へ転換してまいります。

また、牡蠣の販売チャネルを拡大させるべく、2020年8月より、ECサイト（E-オイスター）を通じた一般消費者への販売を開始しました。今後は、SNSを通じたマーケティングを強化し、売上拡大に努めて参ります。

## (2) 財務基盤の安定化

<以下略>

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(訂正前)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	店舗 事業	卸売 事業	浄化・ 物流事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,574,075	137,748	993	1,712,817	13,235	1,726,053	—	1,726,053
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	280,833	280,833	127,231	408,065	△408,065	—
計	1,574,075	137,748	281,827	1,993,651	140,467	2,134,119	△408,065	1,726,053
セグメント利益 又は損失(△)	112,585	55,708	△111,495	56,798	△103,586	△46,787	△82,413	△129,201

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「種苗及び海面養殖事業」、「陸上養殖事業」及び「加工事業及び岩手大槌ヴィレッジ事業」を含んでおります。

2 セグメント損失(△)の調整額△82,413千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	店舗 事業	卸売 事業	浄化・ 物流事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	828,880	70,449	310	899,640	5,041	904,682	—	904,682
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	198,953	198,953	17,899	216,853	△216,853	—
計	828,880	70,449	199,263	1,098,593	22,941	1,121,535	△216,853	904,682
セグメント利益 又は損失(△)	△102,415	17,050	△50,462	△135,827	△61,326	△197,154	△92,409	△289,563

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「種苗及び海面養殖事業」、「陸上養殖事業」、「加工事業及び岩手大槌ヴィレッジ事業」及び「ECサイト事業」を含んでおります。

2 セグメント損失(△)の調整額△92,409千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(訂正後)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	店舗 事業	卸売 事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	1,574,075	137,748	1,711,823	14,229	1,726,053	—	1,726,053
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,574,075	137,748	1,711,823	14,229	1,726,053	—	1,726,053
セグメント利益 又は損失(△)	112,585	55,708	168,294	9,417	177,711	△306,913	△129,201

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「イベント事業」及び「種苗事業」を含んでおります。

2 セグメント損失(△)の調整額△306,913千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	店舗 事業	卸売 事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	828,880	70,449	899,330	5,352	904,682	—	904,682
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	828,880	70,449	899,330	5,352	904,682	—	904,682
セグメント利益 又は損失(△)	△102,415	17,050	△85,364	679	△84,685	△204,878	△289,563

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「イベント事業」及び「ECサイト事業」を含んでおります。

2 セグメント損失(△)の調整額△204,878千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。